

「資 料」

第7回 IWA (国際水協会) -ASPIRE (アジア太平洋地域)
会議・展示会 (クアラルンプール) 報告

日本水道協会研修国際部国際課

本年9月に、マレーシアのクアラルンプールで第7回 IWA (国際水協会) -ASPIRE (アジア太平洋地域) 会議・展示会が開催された。この会議・展示会には IWA 日本国内委員会の事務局である本協会も参加したので、今回の開催内容について詳報する。

マレーシア

マレーシアは13の州と3つの連邦特別区によって成っており、その首都がクアラルンプールである。水及び土地に関する事項は憲法により、それぞれの州が権限を有する。そのため、水道料金は州によって異なる。水道普及率は全土で90%以上と高いが、老朽化した石綿セメント管や水道メーターの不備による無収水率も高い。また、2006年に法改正を行い、上下水道事業の民営化を積極的に推進していたが、クアラルンプールを含むセランゴール州においては、2014年以降再公営化されている。



マレーシア地図

1. IWA-ASPIRE 会議・展示会について

1999 (平成11) 年8月に、水道事業体を中心とした IWSA (国際水道協会) と、学界を中心とした IAWQ (国際水環境協会) が合併し、IWA が設立された。初代 IWA 会長の丹保憲仁教授の強い働きかけにより、IWSA 及び IAWQ のアジア太平洋地域会議として開催されていた「ASPAC (Asian Pacific Group) 会議」及び「Asian Waterqual」が一つに統合され、新しく「ASPIRE 会議」(アジア太平洋地域会議) と命名された。第1回 ASPIRE 会議は2005 (平成17) 年にシンガポールで開催され、以後、アジア太平洋地域の水問題及びその解決策について、産官学の専門家が集結し議論を深めることを目的として、IWA の主要な会議の一つに位置付けられ、IWA 世界会議と交互に隔年で開催されている。

本会議の概要は以下、日程は表-1のとおりである。

期 間	2017 (平成29) 年9月11日 (月) ~14日 (木)
開催地	マレーシア・クアラルンプール
会 場	クアラルンプール・コンベンションセンター
テーマ	Breaking Boundaries – Developing a Better Future for Asia Pacific Regions
参加者数	会議：33カ国より約650名 展示会出展者：75団体
発表数	口頭発表230編 (うち日本より74編) ポスター発表57編 (うち日本より19編)

2. 会議について

(1) 開会式

① 日時・場所

9月11日 (月) 9:00-9:30 バンケット・ホール

表 - 1 会議主要日程

	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日
開会式	9:00-9:30			
キーノート・スピーチ	9:00-9:30 (11日は11:00-11:45) / 14:30-15:00			
口頭発表	11:45-12:45 15:00-16:15	10:00-12:45 15:00-16:15	10:00-12:30	
ポスター発表	全日 (夕方:ポスター・エバリュエーション)			
展示会	10:00-17:00			
ウェルカム・レセプション	17:30-18:30			
ガラ・ディナー		20:00-22:30		
閉会式			15:00-16:30	
テクニカル・サイト・ビジット				半日

(参考) これまでの IWA-ASPIRE 会議・展示会開催一覧

回	開催年	開催地	参加者数	参加国数
1	2005	シンガポール	約700人	25ヶ国
2	2007	パース/オーストラリア	約540人	-
3	2009	台北/台湾	約830人	35ヶ国
4	2011	東京/日本	約1,400人	32ヶ国
5	2013	大田/韓国	約800人	25ヶ国
6	2015	北京/中国	約1,000人	37ヶ国

※参加者数は主催者発表による。

② 概要

全員起立によるマレーシア国家斉唱、Asari マレーシア水協会副会長によるイスラム教のお祈りの言葉、Abdul 第7回 IWA-ASPIRE 会議議長による歓迎の言葉に続き、Diane d'Arras IWA 会長による挨拶が行われた。この中で d'Arras 会長は、SDG や COP21 に触れ「今こそ行動を起こすとき」「このクアラルンプールで得たつながりを大事に、次回の香港会議に繋げよう」と熱く語った。

また、マレーシアの Maximus エネルギー・環境技術・水省大臣は、マレーシアの水分野での課題を挙げつつ、これらの問題について、若手・シニアの技術者一丸となって取り組んでいると述べた。また、特に海外からの参加者は、会議だけでなく、クアラルンプールでの滞在も楽しんで欲しいとの呼びかけもあった。

式の最後には、氷でできた彫像を壊すという日本でいう鏡割りのようなパフォーマンスが行わ



Breaking Boundaries を表現

れ、本会議のテーマである「Breaking Boundaries (境界の打破)」を目に見える形で表現していた。

(2) キーノート・スピーチ

会議のキー・パーソンによるキーノート・スピーチは、表-2のとおり30分の講演が、毎日、

午前・午後に行われた。国連のSDG達成に向けた取組みや、持続可能な水環境実現に向けた意識改革、発想の転換をテーマとしたスピーチが目をつけた。松井三郎京都大学名誉教授もスピーカーとして登壇した。

(3) 併催イベント

一般の会議プログラムと並行して、招待者のみが参加するイベントとして、会議2日目の9月12



松井京都大学名誉教授による講演

日(火)の午前にはマレーシアのエネルギー・環境技術・水省の主催による「Water Leaders Forum – From MDG to SDG」が、同日午後には National Water Services Commission の主催による「Water Regulators Forum – Towards Resilient Water Services」が開催された。

これらイベントには日本からは出席していないため内容の詳細は不明だが、プログラムによると、それぞれテーマに沿った発表やパネルセッションが行われた模様である。

(4) 口頭発表セッション

口頭発表は、バンケット・ホール及び会議室302から307までの7会場を用いて、表-3のようなテーマ分けで行われた。今回の会議での発表編数は287編で、うち230編が口頭発表、57編がポスター発表であった。来年9月に東京でIWA世界会議・展示会が開催されることもあり、日本の発表が非常に多く、口頭発表230編のうち約1/3にあたる74編が日本人による発表であった。

表-2 キーノート・スピーチ

9月11日(月)	
11:00-11:45	1) Water Sustainability 2050: From Affordability to Value Appreciation 水の持続可能性2050: 支払える価格から正当な価値評価へ エネルギー・環境技術・水省 事務局長 Dr. Zaini Ujang
14:30-15:00	2) Water and Energy 水とエネルギー スウェーデン Lund 大学 名誉教授 Prof. Gustaf Olsson
9月12日(火)	
09:00-09:30	3) A Paradigm Shift of Urban Water Management for Asia Pacific Regions アジア太平洋地域における都市水管理のパラダイム・シフト(発想の転換) 京都大学名誉教授 松井三郎
14:30-15:00	4) Kuala Lumpur Initiatives Towards Sustainable Development 持続可能な発展に向けたクアラルンプール市の取組 クアラルンプール市 専務理事 Datuk Hj Mohd Najib bin Hj Mohd
9月13日(水)	
09:00-09:30	5) Water Policy and Governance 水に関するポリシーとガバナンス ハンガリー 外務・貿易省 海外経済部 副長官 Dr. Petra Pana
14:30-15:00	6) Water Resilient Development in Hong Kong 香港における水レジリエントの発展 香港 水道部 部長 Ir. Enoch TS Lam



会場受付



発表会場の様子

(4) ポスター発表

ポスター発表は、展示会場前のホワイエで行われた。今回のポスター発表総数は57編で、そのうち19編が日本からの発表であった。

会議初日及び2日目には、ポスター・エバリュエーション（ポスター評価）という、発表者が自身のポスターの前に立ち、参加者からの質問を受ける時間が設けられていた。昨年のIWA世界会議の400編超というポスター発表数に比べると淋しい印象だが、その分、発表者と参加者の距離が近く、また、コーヒープレイクと同タイミングで



ポスター発表の様子

表-3 口頭発表セッション

9月11日 (月)	9月12日 (火)	9月13日 (水)
セッション1 (11:45-12:45) 1.1 Water Reform / 水の改革 1.2 Water Treatment / 浄水処理 1.3 Coastal Reservoir Management / 沿岸の貯水池管理 1.4 Water Demand Management / 水需要管理 1.5 Microalgae / 微細藻類 1.6 Anaerobic Digestion / 嫌気性消化 1.7 Sanitation & Health / 衛生と健康	セッション3 (10:00-11:30) 3.1 Managing Water Loss - Capturing Non-revenue Water (NRW) / 漏水管理—無収水の探査 3.2 Water and Communities Engagement / 水とコミュニティ 3.3 Flood Prediction & Mitigation / 洪水の予測と緩和 3.4 Water & Energy Nexus / 水とエネルギーの関連 3.5 Innovative Approach / 革新的アプローチ 3.6 Anaerobic Digestion / 嫌気性消化 3.7 Water Infrastructure Technologies & Issues / 水インフラに関する技術と課題	セッション6 (10:00-11:15) 6.1 Pollutants Control / 汚染物質の制御 6.2 Green Energy / グリーン・エネルギー 6.3 Water Pricing and Finance / 料金設定と財務 6.4 Water Security and Compliance / 水の確保とコンプライアンス 6.5 Biological Treatment / 生物処理 6.6 Industrial Wastewater Treatment / 工業廃水処理
セッション2 (15:00-16:15) 2.1 Biological Treatment / 生物処理 2.2 Innovative Solution / 革新的ソリューション 2.3 Disaster Associated Issues / 災害関連の課題 2.4 Chemical Contaminants / 化学的汚染物質 2.5 Smart & Innovative Wastewater Treatment / スマートで革新的な下水処理 2.6 Smart & Innovative Wastewater Treatment / スマートで革新的な下水処理	セッション4 (11:30-12:45) 4.1 Capacity Building / キャパシティ・ビルディング 4.2 Digital Tide for Water Utilities / 水事業のためのデジタル技術 4.3 Smart Water Solutions / スマート・ウォーター・ソリューション 4.4 Water Conservation / 節水 4.5 Improving Health of Waterways / 水路の健全性向上 4.6 Membrane Bioreactor / 膜分離活性汚泥処理 4.7 Climate Change Resilient & Adaptation / 気候変動への対応と適応	セッション7 (11:15-12:30) 7.1 Water Resources Management / 水資源管理 7.2 Innovative Approach / 革新的アプローチ 7.3 Water Related Diseases / 水関連の病気 7.4 Operational Asset Management / 運営面のアセット・マネジメント 7.5 Water Infrastructure & Technologies / 水インフラと技術 7.6 Industrial Wastewater Treatment / 工業廃水処理
	セッション5 (15:00-16:15) 5.1 Climate Change Resilient & Adaptation / 気候変動への対応と適応 5.2 Water Quality for Health / 水質と健康 5.3 Managing Microbial Risks & Impact / 微生物リスクと影響の管理 5.4 Membrane Bioreactor / 膜分離活性汚泥処理 5.5 Biological Treatment / 生物処理 5.6 Water Conservation / 節水 5.7 Biological Treatment / 生物処理	

あったことから、ドリンクや軽食を片手にリラックスした雰囲気で行われていた。

(5) 第11回 IWA 世界会議・展示会(東京)のPR
本会議は、本来アジア太平洋地域における会議であるが、来年には東京で IWA 世界会議・展示会が開催されることから、特別に東京会議をPRする時間をプログラムに組み入れてもらい、IWA 日本国内委員会及び開催国委員会を代表して本協会吉田理事長が英語のスピーチを行った。



吉田理事長による東京会議 PR

吉田理事長は、「SDG や IWA が提唱する Water Wise City 達成のため、東京会議で貢献したい」、「世界を取り巻く環境変化に対し、水分野はどのように対応するのか、様々な背景を持つ私達だからこそ、話し合い、知見を共有すべき」などと述べ、東京会議参加の魅力を存分に発信した。

(6) 閉会式

① 日時・場所

9月13日(水) 15:00-16:30 バンケット・ホール

② 概要

閉会式では、本会議を締めくくるセレモニーとして、多くの参加者が足を運んだ。

式の序盤では、Abdul 会議議長がチェアとなり、マレーシアの Tan Yew Chong エネルギー・環境技術・水省事務次官や Helmut Kroiss 前 IWA 会長らによる「エキスパート・プレナリー・ディスカッ

ション」が行われた。

その後、Tan 事務次官による閉会の言葉があり、その中で「境界の打破という目的を持って開催された会議であるが、それだけに限らず、様々な分野において情報を共有することができた」と述べた。James Dawos Mamit エネルギー・環境技術・水省副大臣によるスピーチに続いて行われた表彰式では、日本から以下の2名が優秀ポスター賞として表彰され、記念品を贈呈された。

【優秀ポスター賞受賞者】

- ・大久保努准教授 (木更津高専) 「Evaluation of disability-adjusted life year and microbial risk for farmers using agricultural drainage water for irrigation in the West Nile Delta / 西ナイルデルタにおける灌漑用農業排水の農業者の障害調整生存年と微生物リスク評価」
- ・Iwew Ndubuisi Samuel 氏 (創価大学) 「Enhancing Anaerobic Digestibility of Aquatic Plant Biomass by Wet-Solis States Serial Digestion Process / 水生植物バイオマスの嫌気性消化率の連続分解プロセスによる増加」

また、表彰式では各日に行われたキーノート・スピーカー5名に対する感謝と、記念品の贈呈も行われた。

閉会式の最後には、次回2019年の第8回 IWA-ASPIRE 会議・展示会の開催地である香港の Enoch 開催国会議議長による挨拶が行われた。香港も決して水資源に恵まれているとは言えず、それらの課題に工夫して取り組んでいること、またマレーシア同様魅力的な開催地であることを強調



ASPIRE のバトンは香港へ

し、2年後の参加を呼びかけ、さらに香港をPRする映像も流された。

3. 展示会

(1) 日時・場所

9月11日(月)-13日(水) 10:00-17:00 グランド・ボール・ルーム

(2) 概要

今回の展示会は、マレーシアで2年に1度開催されている展示会「Water Malaysia」をIWA-ASPIRE会議に併催する形で実施され、アジアを中心に75団体(3つの国別パビリオン含む)、計106ブース(約1,000㎡)の出展があった。会議登録者に加え、当日の来場者も、入口付近のカウンターで登録を行えば無料で入場できるようになっていた。会場であるグランド・ボール・ルームには、各出展者のパビリオン、プロダクト・セミ

ナー会場、ティー・ブレイクのためのケータリングスペースがワンフロアに全て揃っていた。

なお、展示会場の入口と出口は、それぞれ1カ所設けられており、自然と人の流れができるようになっていた。

(3) ジャパンパビリオン

① 出展概要

本協会では国際展開に積極的に取り組んでいる事業体、団体、民間企業に呼びかけを行い、「ジャパンパビリオン (Japan Pavilion)」と称した共同出展ブースを展示会場の中央付近に出展した。

共同出展団体は、14団体(東京都水道局、東京都下水道局、横浜市水道局、JFEエンジニアリング株式会社、水ing株式会社、メタウォーター株式会社、大成機工株式会社、東京水道サービス株式会社、東京都下水道サービス株式会社、日本ニューロン株式会社、日本水道工業団体連合会、日本下水道協会、日本下水道新技術機構、日本水道協会)であり、展示規模は90㎡(10小間)であった。これは、過去のIWA-ASPIRE会議・展示会への出展と比べ、出展団体数及び展示規模ともに過去最大となっている。

展示スペースは、入口と出口を結ぶメイン通路の経路上に位置しており、来場者のほとんどがジャパンパビリオンを目にすることができる好立地であった。

② 展示内容

ア) パビリオンテーマ及びデザイン

今回のジャパンパビリオンでは、各出展団体が「Reliable Technology and Quality」をテーマに、パネルの展示やプレゼンテーション、DVD上映等を行った。

ジャパンパビリオンのデザインについては、随所にLEDライトを導入し、また、パビリオン上部には天井からの吊り看板を設置した。よって、会場内のどこからでもジャパンパビリオンの位置が把握でき、大変効果的であった。

さらに、来年にIWA世界会議・展示会の東京開催が控えていることから、本会議をPRするためのデザインをブース壁面に施した。



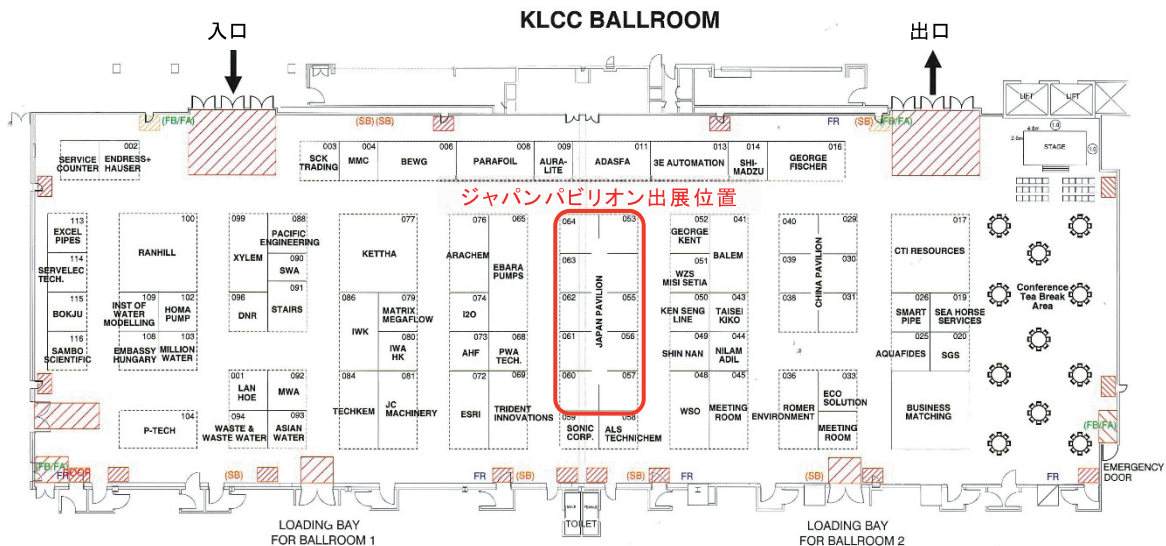
展示会場(グランド・ボール・ルーム)入口



展示会場内の様子

なお、展示会事務局主催のブースデザインコンペティションにて、ジャパンパビリオンはブースデザインの最優秀賞を受賞した。

<展示会配置図>



ジャパンパビリオン・オープニング



ジャパンパビリオン全景



ブースデザインの最優秀賞を受賞



ブース壁面に施された東京会議のPRデザイン

イ) 各出展団体による展示

各出展団体がパネル2枚と、パネルの前に設置された展示台を用いて自由にPRを行った。各出展団体ともパネルでは事業や製品の紹介を行うとともに、パネルの前の展示台には、製品の模型やパンフレット、ノベルティ等を置いてブース来場者に関心を持ってもらう工夫が施されていた。展示パネルについては、パネル全体が発光するLEDパネルを採用し、明るく大変見やすいと好評であった。

また、展示会開催時には、IWA 世界会議（東京）の論文要旨の提出期間中であったことから、IWA 発行の「Call for Papers」をパビリオン内で配布した。



JWWA コーナー

ウ) セミナースペースでの活動

パビリオン内に大型ディスプレイと客席を用意し、出展団体がプレゼンテーションを行うことができるセミナースペースを設置した。セミナースペースでは、各出展団体が製品や事業の紹介を

行っていた。

なお、プレゼンテーションやDVD上映の時間以外には、ディスプレイに東京をPRする動画及びIWA世界会議に関する都知事からのビデオメッセージを上映して、世界会議（東京）に向けた情報発信を行っている。



出展者によるプレゼンテーション

③ プロダクト・セミナー

会期中、展示会場内のテーブルイク・エリアに併設されたステージでは、プロダクト・セミナーが開催された。これは出展者特典の1つで、事前に申請・登録することにより与えられた時間枠内で出展者が企業PR等のプレゼンテーションを行うことができるというものである。過去にはビジネス・フォーラムという名称で開催されることが多かった。

ジャパンパビリオンは各20分の発表枠2コマを3日間にわたり確保することができ、表-4のとおり発表を行った。

表-4 ジャパンパビリオンによる発表

9月11日 (月)		
12:00 - 12:20	Expanding the State-of-the-Art Technology of the Tokyo Sewerage System to the World 東京下水道の最先端技術を世界へ展開	東京都下水道局
	Companies Support through International Cooperation 国際貢献を通じた企業支援	横浜市水道局
12:30 - 12:50	JFE's Challenge on Water Business 水ビジネスにおける JFE のチャレンジ	JFE エンジニアリング

9月12日 (火)		
12:00-12:20	Leading-edge Technologies for Energy and Resource Recovery エネルギーと資源回収の最先端技術	水 ing
	Line Stop System 不断水工法	大成機工
12:30-12:50	Efforts and International Projects for Bureau of Waterworks, Tokyo Metropolitan Government 東京都水道局の取組と国際事業	東京都水道局
9月13日 (水)		
12:00-12:20	Developing Smart Water スマート・ウォーターの推進	東京水道サービス
12:30-12:50	Introduction to Our Company, TSS Tokyo Water Co., Ltd. わが社の紹介、東京水道サービス株式会社	東京水道サービス



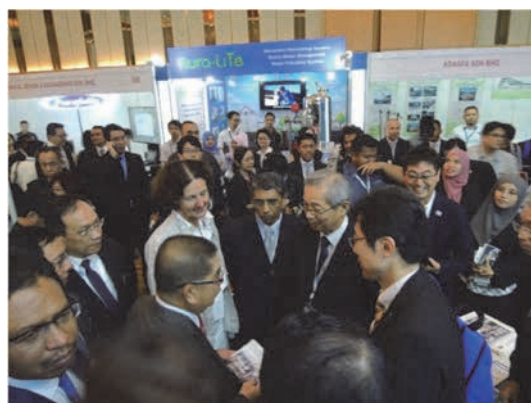
発表の様子

(4) 展示会総括

展示会には、民間企業をはじめ、政府機関、事業体、大学等アジアを中心に様々な団体が出展を行っていた。日本企業は、ジャパンパビリオン以外では現地法人を合わせて3社が単独で出展していた。

初日の開会式後には、マレーシアの Maximus エネルギー・環境技術・水省大臣や d'Arras IWA 会長をはじめとした VIP が展示会場を訪れ、会場内は大いに賑わった。会議登録者以外も当日カウンターにて登録を行えば簡単に入場ができるため、初日以降も一定の来場者数があった。

今回のジャパンパビリオンは、ブースデザインの最優秀賞を受賞したことからもわかるとおり、その規模と装飾により多くの来場者を惹きつけた。期間中には、来年の IWA 世界会議や展示会についての問い合わせもあり、PR に繋がったと思われる。



ジャパンパビリオンにて
Maximus 大臣、d'Arras 会長と会談する吉田理事長

4. サイドイベント

(1) ネットワーキング・レセプション

① 日時・場所

9月11日 (月) 17:30- ホワイエ

② 概要

本レセプションは、ポスター発表の展示を行っているホワイエ (広間) にて行われた。

マレーシアはイスラム教の国であることから、公共の場での飲酒は禁じられており、このような場においてもアルコールの提供はされなかった。その分、参加者に対して十分過ぎるほどの料理やデザートが用意され、ネットワーキングと冠しているとおおり、軽食やドリンクを片手に、和やかな雰囲気です談笑を行える場となっていた。

(2) ガラ・ディナー

① 日時・場所

9月12日 (火) 20:00-22:30 カンファレンス・ホール2

② 概要

ガラ・ディナーは、マレーシアの民族衣装を着たダンサー達のダンスで華々しく幕を開けた。来賓等の挨拶に続いて、マレーシア国内における水教育を推進するためのパイロット・プログラムの「ウォーター・ネクサス・ユースクラブ」の創設が発表され、当該学校の生徒達が壇上に登場し、記念撮影を行っていた。

ガラ・ディナーには、会議登録参加者のほぼ全員となる600名以上が参加していた。



会議登録者の大半が参加したガラ・ディナー

5. 技術視察

(1) 概要

技術視察は会議閉会式の翌日に開催されるオプションであり、今回は全5コースが設定されていたが、本協会職員はこのうち上水道関係のコース番号3に参加した。

(2) スンガイ・セランゴール第二浄水場コースの詳細

① 参加者・時間

参加人数：約46名 (バス2台)

時間：約5時間 (9:00~14:10)

② 施設概要

本コースでは、会議場からバスで1時間半程度のセランゴール州にある浄水場の視察を行った。本浄水場は、セランゴール州、クアラランプール、プトラジャヤの総人口の約24% (約173万人) に給水を行っている。標準処理能力は1日あたり950,000m³であり、ACTIFLOと呼ばれる超高速凝集沈澱装置を用いた浄水場としては、マレーシア最大かつ東南アジアでも有数の規模を誇る。

表-5 テクニカル・サイト・ビジット

番号	定員	コース名
1	40名	Stormwater Management and Road Tunnel (SMART) / 雨水管理・道路合同トンネル
2	40名	Pantai 2 Sewage Treatment Plant / バンタイ第二下水処理場
3	40名	Sungai Selangor Phase 2 (SSP2) WTP / スンガイ・セランゴール第二浄水場
4	40名	Putrajaya Wetland / プトラジャヤ湿原
5	40名	Hartalega NGC Sdn Bhd / ハルタレガ NGC 非公開会社

③ 視察内容

浄水場に到着後、軽食が振る舞われた。その後、会議室に移動し、浄水場内の緊急時の行動と安全対策についての説明があった。緊急時には、火災、塩素漏出、場内からの避難を表す異なる音のサイレンが場内に流されるとのことであった。その後、浄水処理過程の紹介ビデオが流された。

川から取水された原水は、原水ポンプ場を経由して 4 km 離れた浄水場に送られる。エアレーターと分配器を経由し、ACTIFLO と呼ばれるシステムにより凝集沈澱が行われる。このシステムにより、凝集処理工程から汜過池に到達するまでに21分で完了する。続いて汜過が行われ、最終的にポンプにより3つの配水池に浄水が送られる。

原水の臭気や鉄、マンガンを除去する前処理として曝気処理が行われており、凝集剤は硫酸アルミニウム、凝集補助剤としてポリマー投入が行われる。これは日本ではあまり見られないが、マレーシアでは一般的な方法とのことであった。

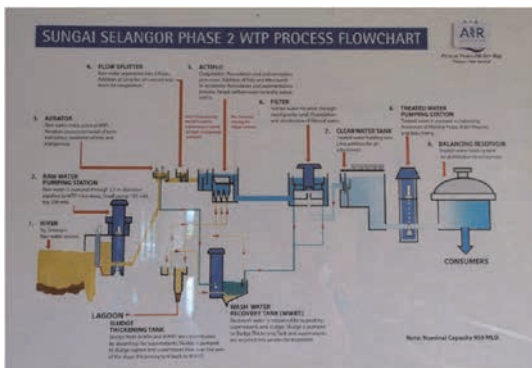
原水の濁度は、通常時には100NTU 程度、濁度が高いときには3,000NTU 程度にもなるという。マレーシアでは、浄水処理により 5 NTU 以下にしなければならないとのことであり、日本の水質基準 (2度 (1.4NTU)) との差を感じた。その後は、場内のコントロールセンターと ACTIFLO を視察し、全行程が終了した。



浄水場内の様子



浄水場職員による説明



浄水プロセスの概要



ACTIFLO の様子

6. IWA-ASPIRE 評議会

(1) 日時・場所

9月11日(月)12時 - 301会議室

(2) 概要

評議会にはIWA事務局の他、マレーシア(開催地)、香港(次期開催地)、台湾、オーストラリア、シンガポールの代表者が出席しており、日本からは松井佳彦水環境学会副会長(北海道大学大学院教授)、吉田理事長、渋谷国際課長が出席した。

出席者の自己紹介の後、d'Arras IWA会長が挨拶を行い、開催事務局の功績を称えとともに、IWAの活動におけるASPIRE会議の重要性を訴えた。

続いて、Ganesh Pangare IWAアジア太平洋地域事務所長の司会のもと議事に入り、以下のような報告、機論が行われた。

① 第7回 IWA-ASPIRE 会議の開催速報

Lee Koon Yew マレーシア水協会理事長の説明により、会議初日における会議参加者、展示会出展者の状況が報告されるとともに、会議・展示会会場が全て同じフロアに収まっている等の利便性等がアピールされた。

② 香港開催第8回 IWA-ASPIRE 会議の情報

2019年に香港にて開催されるIWA-ASPIRE会議について、以下のとおり概要が説明された。香港では1996年に国際水道協会(International Water

Supply Association)のアジア太平洋(ASPAC)地域会議が行われており、この時の参加者数は41カ国481名であった。2019年はこの数字を大幅に上回る参加者を期待している旨、報告された。

- 会期：2019(平成31)年10月31日(木)～11月3日(日)
- 会場：香港コンベンション&エキシビジョンセンター(HKCEC)

③ ASPIRE 会議開催についての入札手順とその制度化

Tom Mollenkopf IWA副会長より、2021年のASPIRE会議開催地決定にあたり、新たにASPIRE会議開催地の入札手順の規程を設け、IWAと協定を結ぶ制度としたい旨提案された。

2021年の開催地については、台湾が既に立候補する意思を表明していたが、台湾サイドより、提示された手順では国内の準備が間に合わないの、再考を検討してほしい旨の発言があった。最終的に、本規程の導入については、継続して審議されることとなっている。

④ IWA 世界会議・展示会(東京)についてのプロモーション

IWA日本国内委員会、2018年IWA世界会議・展示会開催国委員会を代表して、本協会吉田理事長が挨拶を行った。

吉田理事長は、配布したIWA世界会議(東京)のチラシ等をもとに、現在論文アブストラクトを募集していることをPRするとともに、世界の水



評議会の様子

道が抱える課題を解決するには、IWA-ASPIRE 会議や IWA 世界会議においてお互いの知識、経験を共有することが必要であり、来年、東京で再会できることを楽しみにしていると呼びかけた。

7. 本協会主催ツアー

本協会では、例年 IWA の会議 (IWA 世界会議並びに ASPIRE 会議) に併せて会議参加ツアーを主催している。今回は水道事業体、民間企業、団体等から計37名が参加した。ツアーには航空機・宿泊・会議に係る登録等の手配のほか、クアラルンプールの市内視察や情報交換会も含まれ、普段接する機会が少ない人との交流の場として有効にご活用いただいた。

参加者は特にアジア地域における水に関する情報を収集するために会議・展示会及び技術視察ツアーに積極的に参加していた。

8. 会議総括

今回の IWA-ASPIRE 会議は、マレーシア国内からの参加者よりも海外からの参加者が多く、その中でも日本からの参加者が一番多かった。口頭・ポスター発表でも日本からの参加者が多くを

占め、セッションの中で積極的な質問や疑問が投げかけられ、日本の技術等に対する関心の高さが伺えたのと同時に、アジア地域における日本の存在感を示すこととなった。

イベント等は概ね時間どおりに進行し、セッション会場もほぼ一か所に集約しており、コンパクトにまとまっている印象を受けた。ただ、前回の北京での IWA-ASPIRE 会議と同様、直前のプログラム変更や情報の公開の遅さ、案内のミスなど、ロジスティック面での不安もあった。その中でも、現地ではマレーシア流のおもてなしを受け、参加者同士の交流を活性化する雰囲気の良い会議であった。

今回の会議では、SDG の達成、気候変動への対応の重要性が強調される機会が多く、IWA も各国の規制機関と協働して取り組んでいく姿勢を前端的に打ち出していた。来年9月には、IWA 世界会議展示会が東京で開催されるが、このような全世界的に抱える課題を解決できる場となるよう本協会も開催国委員会の一員として、IWA や国内関係者とこれまで以上に連携を図りながら、引き続き準備を進めていく所存である。